

# ジャパンマイコンカーラリー 2008

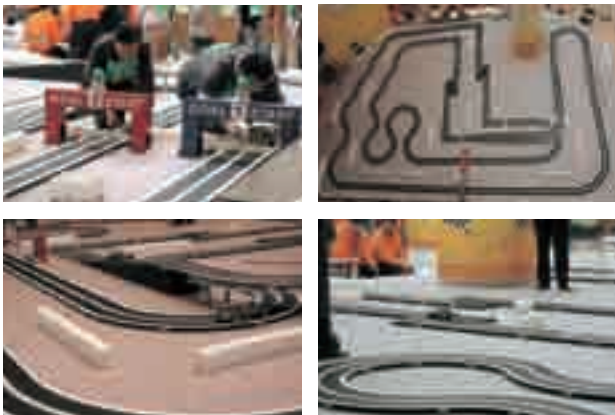
「ロボマガ」記者・城井田 勝仁

## 競技内容

ジャパンマイコンカーラリーは、いわゆるライントレースロボットによる競技である。実行委員会の支給するマイコンボードを搭載した、幅30cm×高さ15cmに収まる大きさの自走ロボットが、一筆書きの周回コースを疾走して、そのタイムを競う。

コースは幅30cm×高さ3cmの黒色のパーツを組み合わせて作られ、トレース用のラインは幅2cmの白色で描かれる。その両脇には幅1cmの灰色ラインも描かれ、アナログセンサーによる詳細なトレースも可能となっている。

コースの難易度はきわめて高く、クランク(直角カーブ)やS字カーブ(最小内径450mm)、立体交差(傾斜角度7度以内)などが含まれる。2007年大会からはレーンチェンジコースも導入され、さらに難易度が増した。



## 大会を陰から支えるルネサス

大会名に記されていないことから、広く知られてはいないが、ジャパンマイコンカーラリーは第1回大会からルネサスの支援を受けて運営されている。ロボット制御用マイコンとしてH8が使われているのはそのためだ。



塚本克博(ルネサステクノロジ 代表取締役 社長& COO)

「実際の大会(を見るのは今回が初めて)」と言う、そのルネサスの塚本社長が今大会にわざわざ足を運んだのは、「ルネサスの中で、新入社員の全員にやらせたらどうかという案も出てる」からのような。もっとも、仕事を忘れてのめりこまれても困るということで、実現は難しそうではある。実際、塚本社長自身も、自前のカメラでロボットや競技を撮って回っていたくらいで、同社にはそうした志向のある社員は少なくなさそうだ。

あくまでも支援の立場で、運営には積極的に関与しない姿勢のルネサスだが、ジャパンマイコンカーラリーの底辺の拡大には期待している。「中学校とか小学校高学年くらいで」と、より若年層からの参加を望む。海外では、すでにベトナムで2回の大会を開催し、昨年末には中国大会も実現させた。今後も、ルネサスの拠点がある国や地域で、マイコンカーラリーを普及させていきたい意向のようだ。

## 大会結果

### 高校生の部 優勝



「LineSpear」池田 竜  
香川県立三豊工業高等学校

### 一般の部 優勝



「若鷹」番土 隆  
砺波マイコンカークラブ (TMCC)